

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791700020		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 フレンド天王寺(2階)		
所在地	大阪府大阪市天王寺区味原町15番11号		
自己評価作成日	令和元年5月20日	評価結果市町村受理日	令和元年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791700020-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設が鶴橋駅から徒歩圏内にある為、ご家族様・ご友人に訪問して頂きやすい場所にあり、大阪赤十字病院へも徒歩3分と利便性もあります。当グループホームでは過ごされる方の安心、安全、取り巻く環境を第一に考え、穏やかな生活を送っていただけるように日々支援させて頂いております。認知症により、出来ない事や忘れてしまう事が増えても、住み慣れた地域で、その人らしく暮らして頂けるように真心をこめてお手伝いします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の笑顔を大切にしたり明るい雰囲気作りやに努めると共に、書道に取り組んでもらう等、利用者ができる事に注目し活動的に過ごせるよう支援しています。日々時間を工夫し散歩や買い物に出かけたり、駅に近い立地を生かし電車を利用し大阪城公園や天王寺動物園、新世界等への外出を企画し利用者に楽しんでもらっています。また大衆演劇のボランティアや敬老の日には近隣保育園児が来訪し、歌等の披露やゲームと一緒に楽しむ等、利用者の笑顔に繋がる交流を行うよう努めています。家族へは毎月報告書を送付し本人の様子を伝えると共に毎月利用者の暮らしぶりをブログで発信したり、ホームの玄関には法人へ直接意見が出せる葉書を置く等、家族が意見や要望を出しやすい工夫し、得られた意見は職員間で検討しサービスの向上に反映させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で、その人がその人らしく暮らす。地域に密着した尊厳ある生活。その人がその人らしく暮らす。」を理念として掲げ、その人らしい生活を送ることが出来るようご本人様、家族様のご希望を最大限尊重し、現場で活かされるよう取り組んでいる。	法人理念をホームの理念として玄関に掲示し、職員の入職時には研修の中で理念の共有に向けて込められた意図を伝えています。また月に1度のカンファレンスや勉強会などで理念を念頭に置き個別ケアを考えています。常にその人らしさを大切に、地域行事へ参加したり、出会った方と挨拶を交わすなど理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と年1回は交流を深めている。	地域の公民館等で行われるふれ合い喫茶やゆうあい喫茶に利用者と共に参加したり、近所のコンビニや薬局等へ利用者と一緒に買い物に行き出合った方と挨拶を交わしています。また近隣にある同法人施設との交流や年に1度保育園児が来訪し、歌の披露や共にゲームを楽しむ等の交流を継続しています。大衆演劇のボランティアの来訪があり、今後はボランティアを増やしたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた発信として、定期的に玄関のホワイトボードに利用者が書いた標語を出している。また、ブログを毎月更新している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当法人系列のフレンド筆ヶ崎を共同で開催している。運営推進会議には地域の代表、包括支援センターの代表、ご家族様、ご入居者様を交え意見交換、現況報告を行っている。	会議は近隣の法人施設合同で開催し、利用者代表や地域包括支援センター職員、時には家族の参加を得て開催し、ホームの状況や研修、事故などの報告を行い意見交換しています。身体拘束に関する具体例を挙げながら勉強会を行ったり、参加者からは夏祭りなどの地域行事の案内もあり、今後はできる限り参加したいと考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に訪問させていただき現在の状況など報告をしている。また運営推進会議を通じてイベントの報告など生活の様子も伝えることが出来ている。	分らない事は市や区に電話で問い合わせさせて相談し、アドバイスを受けています。集団指導に出席したり行政からは防災についての注意喚起の案内が届いており新しい防災マップをもらいに出向くなど、連携が図れるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような状況に置かれている利用者様であっても、身体拘束を必要としないケアの方法をスタッフと話し合いケアの実践に努めている。	年に2回身体拘束に関する研修を実施し、認知症の勉強会の中でも身体拘束について触れています。不適切ケアに関する無記名アンケートを行い、利用者の行動を止めず見守る支援に努めています。家族の了解の下、安全に付き添うためセンサーを使用している方がいますが必要性を再確認し取り外す場合もあります。また適正化委員会を立ち上げ運営推進会議の中で勉強会を行っています。	

グループホームフレンド天王寺(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修を行い、虐待の防止に努めている。また、新規スタッフには必ず事前資料として虐待に関すること、認知症への理解が出来る資料を配布して虐待防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の資料を通じ、権利擁護について学んでいる。今後も継続して尊厳ある暮らしの提供が出来るように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、家族様にはわかり易く契約時に説明を行っている。契約後も不安や疑問があれば説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の意見が伺えるよう来所時には必ず挨拶をして、お出迎えをしている。また意見箱の設置、苦情相談窓口を設け、家族様のご希望を伺えるよう取り組んでいる。	家族へは毎月の報告書で様子を伝えたり、ブログでも暮らし振りを発信しており、面会時等に意見や要望が無いかを聞いています。また法人に直接意見が出せる葉書を玄関に置いたり、面会簿でも意見を募っています。家族から散歩について意見が出された際には散歩の機会を増やし、全利用者が散歩に行っている事を家族に伝える等、得られた意見や要望には速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを行い現場からの意見を聴く機会を設け、良案を実践できるよう取り組んでいる。	月に1度のフロア会議では、全職員に意見や検討して欲しい内容を事前に書いて提出してもらい、それらを議題に会議で話し合っています。職員の意見や提案を受けて入浴担当者を分かりやすく表にしたり、行事の一環としてフレンド喫茶を開き利用者を楽しんでもらうなど、職員の意見を反映した取り組みに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	定期的なミーティングや、話し易い、聞き易い環境を作れるように努めている。新人スタッフが早く打ち解けられるようにイベントなども積極的に開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や指導を通じスタッフが学ぶ機会を作っている。また、利用者様のご病気などその時、必要に応じ資料を配布しスタッフは学んでいる。		

グループホームフレンド天王寺(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学会を開くなど同一事業者との交流を図るよう取り組んでいる。定期的に他社施設見学をさせていただきサービスの質を向上させるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談を必ず行い、要望を伺っている。入所後もカンファレンスなどを通じて安心、安全な生活を提供できるようにスタッフ全員で取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に家族様の今後の不安や困っていることを親身に聴いている。また、入所後もこまめに連絡を取り、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様のご要望を伺い、そのときのADLに鑑みて必要なサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活していく中、皆様の尊厳を大切にし、出来ることをさせていただきながら支えあい生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様、ご本人様との話し合いの場を大切にし、時に家族様にご助力いただきながら支援させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との手紙のやり取りや、電話連絡、面会の制限は設けず可能な限り受け入れしている。	職場の同僚だった方や近所に住んでいた方などの来訪時は居室に椅子などを用意し、ゆっくり話ができるよう配慮をしています。馴染みの方から届いた手紙や葉書に返事を出す利用者もおり、一部を代筆したり投函などを支援しています。また行事の際に繁華街などの馴染みの場所を選んだり、家族と共に墓参りに出かける方もおり、スムーズな外出に繋がるよう出かける準備などを支援しています。	

グループホームフレンド天王寺(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員参加のイベントや話題の共有を通じて一人になる状況を作らないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も困ったことなど相談できるよう家族様との関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在の状況を踏まえご本人様の意思を汲み取れるよう日々関わっている。本人と定期的に面談し、本人の思いを汲み取れるよう心掛けている。	入居に向けては利用者や家族と面談し、本人や家族の思いや希望、生活歴、身体状況などを聞き意向の把握に繋げています。入居後は日々の会話の中から直接聞いた思いを介護記録や申し送りなどで職員間で共有し思いの実現に向けて話し合ったり、困難な場合には家族にも聞きながらカンファレンスで思いが把握できるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、趣味、嗜好を把握できるようご本人様、家族様を交え話し合いをしている。家族様へはどの様に生活をおくって頂きたいかのご希望も必ず伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりあいの中で、どのような心身状況にあるかを常に観察し、都度必要な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前のご本人様、家族様、関係事業所との話し合いは必ず行っており、入居後も1か月に1回カンファレンスを実施し、現状を把握して介護計画を作成している。	アセスメントを行い本人や家族の意向を基に担当者会議を開き介護計画を作成しています。毎月のカンファレンスでは全利用者について状況に変化が無いかを確認し、入居当初は1～3ヶ月の短期で見直し、その後変化の無い場合は通常6ヶ月毎に計画の実施状況をモニタリングし、再アセスメントを行い介護計画を見直しています。また必要に応じて往診時に確認した医師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分、食事量、排泄、心身状態の変化などを日々の状態を介護記録に記入して、職員間で共有し介護記録の見直しに活かしている。		

グループホームフレンド天王寺(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人レクなどそのときの心身状況、に応じて柔軟なサービスを提供できるように努めており、ご本人様の要望や意向に対し、リスクを考えながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ふれあい喫茶など地域資源を活用し、日々の生活を楽しく送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医に月2回往診にきて頂いており、24時間利用者の変化等の電話対応してもらって適切な医療を受けて頂けるよう支援している。	入居時にかかりつけ医を継続できる事や協力医についても説明し選択してもらい、内科については全員が24時間相談や指示をもらえる協力医に変更し月2回往診を受けています。専門医を受診する際は家族が付き添い、医師に紹介状を書いてもらったり医師間でもやり取りが行われ連携が図られています。また訪問歯科や精神科、訪問マッサージの来訪があり、希望や必要に応じて治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、往診医と連携し、状況に応じた相談ができる体制にあり、適切な受診・看護を受けてもらえるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は主治医に相談し、紹介状や情報提供報告書にて、ご入居様が安心して治療できるよう努めている。また入退院時には病院に出向き情報の共有を行い、早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様のご意向を最大限尊重し、協力医療機関との連携の下、支援できる体制の構築を行っている。	契約時に重度化に関する指針に沿って説明し、緊急搬送についての意向や常時医療が必要となった場合は対応が難しいこと、家族の協力が必要なことなどの説明を行っています。本人や家族の意向に添って看取りを支援する際には医師と連携を図り、家族の協力を得ながら職員間でも支援の方法を検討し、できる限りの支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員全員が対応できるように指導している。消防署に普通救命講習を実施して頂き、応急処置、初期対応ができるようにしている。		

グループホームフレンド天王寺(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成をし、すぐにスタッフの応援を確保できるようにしている。また定期的に消防訓練など行っている。	年に2回其々昼夜を想定した訓練を行い、1度は消防署から委託を受けた業者の協力を得ています。訓練では決められたホーム内の避難場所への誘導や空気消火器を使用しての訓練など一連の流れを確認しています。また避難場所を含む防災マップを各フロアに掲示し、水や食料、ライトなどの備品を準備しています。地域との協力関係については課題としています。	地域との協力関係作りが課題となっています。訓練を行う際に近隣に案内したり、運営推進会議で議題に上げ協力関係作りに向けて話し合われてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時々状況に合わせた言葉遣いで対応しており、人生の先輩である利用者様に敬意をこめて対応するように指導している。	年に1度接遇やマナーに関する研修を行うと共に言葉遣い等に関するアンケートを定期的に行い振り返る機会を持っています。利用者へは苗字での呼び掛けを基本とし傾聴する事を大切にしています。また待ってもらう際の声の掛け方を具体的に伝えたり、排泄介助時の声の大きさなどにも配慮をしています。また不適切な対応や言葉遣いが見られた場合はその都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により、意思表示が困難になった方でも思いをくみ取ることが出来るように、言葉がけの工夫を行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の状態を踏まえ、ご自身で自己決定が出来るよう、スタッフは寄り添い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容の促しによりその人がその人らしい格好を出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居様のご希望を伺い食べたいものを皆で作って食べるイベントや、日々の食事メニューを掲示し、話題のひとつとすることで楽しみを持っていただけるよう取り組んでいる。	食事は季節感に配慮したチルド食を温めて提供し、ご飯と汁物はホームで作り、利用者は盛り付けやテーブル拭きなどに携わっています。月に1~2回は利用者の好みを取り入れ鍋料理やお好み焼き、流し素麺などをしたり、チョコフォンデュやチジミ、おはぎなどのおやつ作りを行い、食べる事を楽しめるよう支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往診医へ都度相談し水分、食事量など必要に応じた支援を行っている。		

グループホームフレンド天王寺(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の支援でADLに合わせた口腔ケアを毎食後に行っている。また、定期的に歯科往診を行うことで口腔内の健康を保つことが出来る機会を確保している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居様一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声掛け、誘導をさせて頂く事によりトイレの失敗を減らせるように支援している。	記録を参考に排泄リズムを把握し、個々のタイミングや声掛け、誘導により日中はトイレで排泄できるよう支援しています。本人の意志を尊重しトイレの外で待機したり、夜間は睡眠を優先する利用者もいて、個々の状況に応じて支援方法を検討しています。また退院後などはおむつの使用から早期に紙パンツに改善するなど自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄状況の確認を行っている。また医師の指示にて便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は設定しているが、ご入居者様の気分や体調にあわせ対応しています。	入浴の準備は毎日行い、週に2回を目安に概ね午前中に支援しています。希望により回数や時間帯を変更したり入浴剤などを入れ、職員とマンツーマンで会話しながら入浴を楽しめるよう支援をしています。入浴を断る方には声掛けの工夫をしたり職員を交代し、困難な場合は清拭やシャワー浴での対応、また次の日に変更するなど個々の希望に沿った入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して夜間、良眠できるように支援している。それでも眠れない方には訪問医と連携し睡眠導入剤などを服用していただき、1日のリズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的、副作用などスタッフで共有している。医師の指示通り服薬が出来るように情報を全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様のADLに合わせて洗濯物たたみや食事配膳など出来る事を見極め役割を持った支援を行っている。		

グループホームフレンド天王寺(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時期にあった散歩コースの選定を行い、近所の公園、神社など散歩を行う支援をしている。またご家族様との外出の機会を確保するなど積極的に家族様との交流も図っている。	気候の良い時期は近隣への散歩や買い物など職員間で時間を工夫しながら出かけています。近隣にある公園に散歩を兼ねて桜の花見に行ったり、公共交通機関を利用し動物園や新世界などの繁華街、大阪城公園等に出かけています。また家族と共に外食や温泉旅行などに出かける方もおり、家族の協力も得ながら外出の機会を多く持てるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品の購入などは利用者様と一緒に購入に行くことや、その他買い物など積極的にお金を使うことの機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆、ポストの投函、家族、友人など電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口の表札や大きいトイレのマークなどを掲示することにより混乱無くご自身の意思どおり生活していただけるように配慮している。また、ご入居者様が話し易いよう席の配置も考え日常の支援を行っている。	共用空間には大きく見やすい時計を掛け、雛人形や七夕飾り等と共に利用者の書や紫陽花の貼り絵等季節に応じた作品を利用者と作り飾っています。テレビの前にソファを置き寛げるよう工夫したり、利用者間の関係を見ながら心地よく過ごせるよう座席を決めています。また、日々掃除や換気を行い清潔を保持し採光をカーテンで調整したり、温湿度で確認しながら快適に過ごせる環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士話すことが出来るよう座る場所の配慮を行っている。また全員参加のゲームを行うことで親睦を深める環境を作れるように支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室内に配置し、危険が無い物で好みのものを持ってきていただくことにより安心して心地よく過ごしていただけるように支援している。	居室の入り口に利用者の顔写真を飾り自室を分かりやすくしています。居室には好みのカーテンが取り付けられ、テレビとテレビ台や籐の椅子などの馴染みのある物が持ち込まれ、家族と相談しながら過ごしやすいよう配置をしています。また自身や家族の写真を飾ったり、大切な仏壇を置く方もおり、その人らしく安心して過ごせる居室となるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリーなのは勿論のこと、わかり易い標識などの掲示やADLに合わせた福祉用具の活用をすることにより安心して自立した生活を送ることが出来るように環境の整備、支援をしている。		